

# 「平和」とは何か

多摩市立大松台小学校 5年 佐野 舞白

私にとって「平和」とはなんだろう。みなさんは「平和」について考えたことはありますか。被爆地派遣員に決まった時からたくさん考えました。

派遣員になる前の私は、日本での戦争や原爆投下は昔のことというイメージで、原爆の悲しさ、むごさ、こわさを想像できていませんでした。被爆地以外に住んでいる小学生には、私のような人が多いのではないのでしょうか。残念ながら長崎に行くことはできなかったけれど、私たちは被爆地へ行かなくても、本や映画、美術館で原爆について知ろうと活動してきました。特に埼玉の丸木美術館に展示してある画家の丸木夫妻の描いた「原爆の凶 第1部《幽霊》」という絵に、私はこわさを感じ、残こくさに目をそむけたくくなりました。被爆した人たちが、やけどで垂れ下がってきた皮がずり落ちないように、腕を前に突き出して行列になっている様子が描かれていたのです。

そして、被爆者の苦しみは大きく3つあることがわかりました。1つ目は、被爆者の方は心に一生治らない深い傷を負っているということです。体験したことを思い出したくないという方がたくさんいます。それでもまた戦争が起きないように、二度と原爆が落とされないように言葉を探しながら伝えてくれています。原爆が持っている三つの武器「熱線、ばく風、放射線」のおそろしさを表した言葉で、「原爆は三度人を殺した」という言葉も印象に残りました。2つ目は、苦しんでいるのは被爆者だけではなく、被爆二世、三世の方も苦しんでいるということです。直接被爆をしていなくても原爆のえいきょうで、体が弱く生まれてしまったり、白血病やがんなどにかかってしまうことがあります。被爆者本人だけで終わらないのが原爆だと知りました。3つ目は、差別です。被爆者、被爆二世、三世というだけで気味悪がられたり、被爆者から放射能が出てうつるという間違っただけの情報もあって、差別されたといいます。もし自分が差別されたら、社会から自分だけ切りはなされたような気がして、つらすぎてたえられないと思いました。

では戦争が無い世界にするにはどうすればいいのでしょうか。その答えはかん単には出せません。けれど、誰が悪い、やられたらやり返すではなく、おたがいの立場に立って考えて話し合うことが大事なのではないかと思いました。どちらにも言い分があるのだから傷つけあうだけでは争いはなくなりません。

コロナウイルスがはやっても、学校に行って勉強が出来て、友達と話をし、おいしいご飯を食べられて、夜は安心して眠れました。今ならこの当たり前の毎日こそが「平和」なのだと感じる事ができます。「平和」な世界への一歩は、「平和」とは何かについて考えることだと思います。みなさんも「平和」とはどういうことなのか考えてみてください。